

産業廃棄物処理計画書

2023年5月30日

大阪府知事（大阪府泉州農と緑の総合事務所長） 殿

受	付
令和	-5.5.30
泉農緑第	号
大阪府	

提出者

住 所 大阪府泉南市男里4-33-7

氏 名 株式会社リバース 代表取締役 谷マリ子

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 072-485-4545

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社リバース 泉南工場
事業場の所在地	大阪府泉南市男里4-33-7
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	14：パルプ・紙・紙加工品製造業
②事業の規模	製造品出荷額：30億円
③従業員数	85人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) 別紙の通り

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	排出量	1605 t	428933 t
	(これまでに実施した取組) ①原料・製品歩留の向上のため、各部署各工程にて減量化の取組みに努めている。 ②月1回開催されるISO環境管理委員会で発生量を報告し、産廃発生要因解析を行ない、さらなる減量化を模索している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	排出量	1750 t	420000 t
	(今後実施する予定の取組) ①古紙原料の歩留向上のため、異物混入抑止の啓蒙活動。 ②木質チップの使用量削減を検討し、もえがら・ばいじんの削減を図る。 ③焼却施設でのさらなる燃焼の効率化に取り組み、もえがら・ばいじんの削減を図る。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類・汚泥・もえがらばいじんをそれぞれ分別し、保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	－ t	－ t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	－ t	－ t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	1605 t	11329 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1077 t	425080 t
(これまでに実施した取組) ①原料歩留の向上（余剰蒸気の利用によるバック蒸し、薬品添加量や運転方法の改善によるスラッジ発生抑制） ②スラッジスクリーンプレス+焼却施設により、全量ボイラー熱回収。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	1750 t	12180 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1225 t	416346 t
(今後実施する予定の取組) 特になし			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 予定なし		

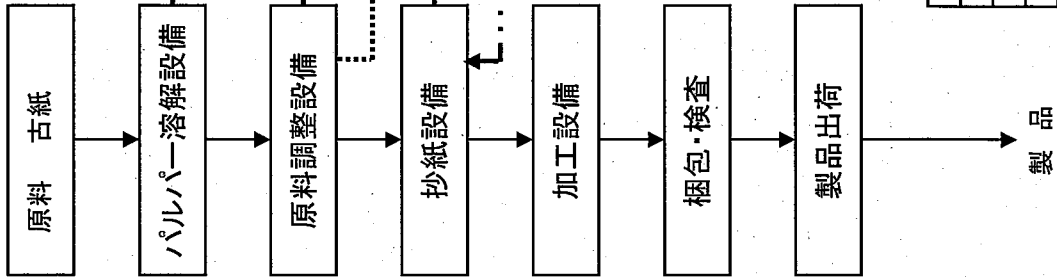
産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(2022年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	全処理委託量	528 t	3853 t
	優良認定処理業者への処理委託量	528 t	3853 t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
(これまでに実施した取組) 以前は、廃プラスチック類・有機性汚泥も処理委託していたが、全量自社で焼却できている。経営母体が優良認定廃棄物処理業者であり、双方の監視体制は十分である。現地確認も行なっている。			

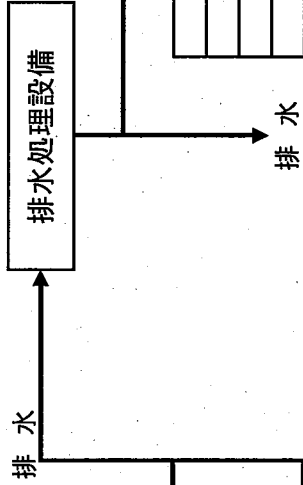
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	有機性汚泥
	全処理委託量	525 t	3654 t
	優良認定処理業者への処理委託量	525 t	3654 t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
※事務処理欄			

2022年度 産業廃棄物発生行程フローシート(実績ベース)

A 製紙行程



B 排水処理工程



2021年4月1日 ~ 2022年3月31日
汚泥スラリー量(給泥量) $428,933 \text{ m}^3/\text{年}$

B-1
脱水機
自社焼却
11,720t

給泥量 $\times 2.73\%$

A-2
廃プラ
自社内焼却
1,605t

蒸気

製紙スラッジ

B-3
製紙スラッジ
乾燥設備
自社内焼却
0t(廃止)

B-2
製紙スラッジ
管理型理立
0t

A-1
廃プラ
管理型理立
0t

C 焼却行程

建設廃木材(木屑)

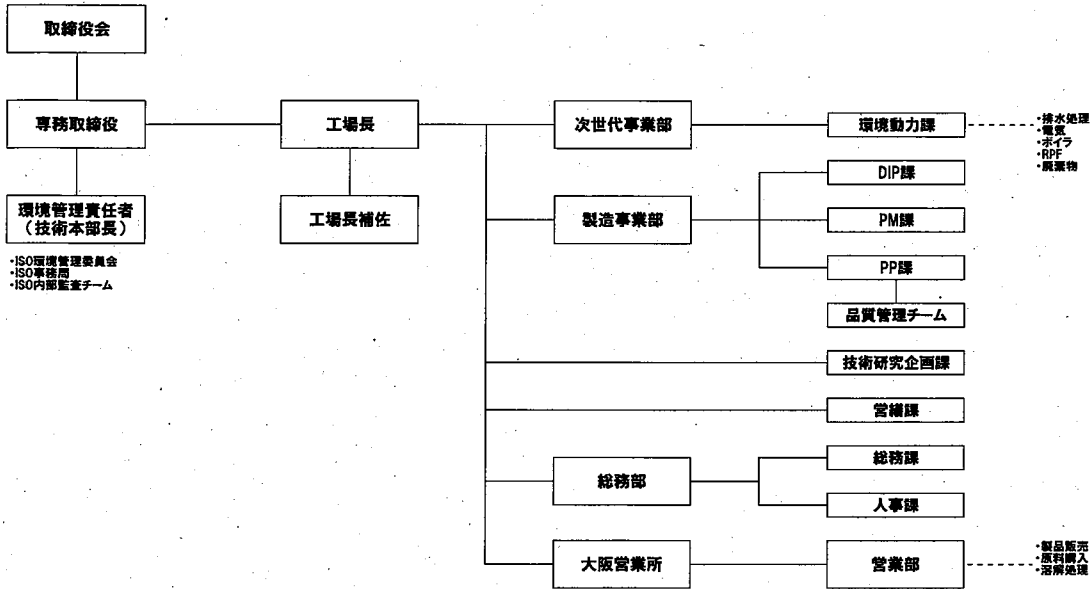
C-1
焼却設備
木屑ボイラー

C-2
廃棄物焼却残渣
管理型理立
4,380t

C-3
廃棄物焼却ダスト
管理型理立
4,380t

株式会社 リバース 組織図

2022.04現在



各部署の役割

部署	役割
次世代事業部	・各部署間の調整・指示
	・産業廃棄物処理計画の策定
	・最終処分場の稼働状況の把握
	・産業廃棄物の分析(外部依頼)
	・廃棄物の発生～処分の帳簿作成、統括的に把握管理
	・廃棄物の発生工程・種類ごとの発生量、排出量・性状のチェック、集計
	・行政の立合い、届出・報告等の対応
	・産業廃棄物の種類・性状・発生量および排出量の把握
	・施設の維持点検管理等
	・保管施設の保管量の把握、中間処理施設の稼働状況の把握、記録作成、搬出手配
製造事業部DIP課	・産業廃棄物の水分測定
	・生産工程における産業廃棄物減量化の実践
総務部	・処理委託契約、委託量・マニフェストの管理
	・産業廃棄物処理コストの算出・把握
	・産業廃棄物の適正処理費用の算出
	・委託料金の支払業務
ISO環境管理委員会	・産業廃棄物の適正管理・減量化に関する社内啓発
営業部	・事前分別などのPR(産業廃棄物の発生抑制)